

アブダビ政府系ファンド、コスモへの出資5%下げ 株式売却、関係は継続

石油元売り大手のコスモエネルギーホールディングス（HD）は17日、同社の筆頭株主であるアラブ首長国連邦アブダビ首長国の政府系ファンド、ムバダラ・インベストメントの出資比率が20.76%から15.69%に下がったと発表した。脱炭素の流れが進む中、投資ポートフォリオを見直す狙いがあるとみられる。

16日にムバダラ完全子会社のインフィニティ・アライアンス・リミテッドが関東財務局に提出した変更報告書によると、保有する1760万株のうち430万株を市場外で売却した。

売却単価は1株2612円で、総額は約112億円。コスモHDは「本売却によるアブダビ首長国における石油開発事業や原油の安定調達など事業活動への影響はない」という。

コスモHDは産油国との連携を強化し、原油の安定調達につなげる戦略を打ち出してきた。2007年に第三者割当増資を実施してアブダビ政府系投資会社が筆頭株主になり、取締役を受け入れるなど関係を深めてきた。ムバダラは現在も筆頭株主に残っており、コスモHDは協力関係を続けたい考えた。

豪英BHP、42%増益 21年6月期 鉄鉱石好調で

豪英資源大手BHPグループが17日に発表した2021年6月期決算は純利益が前の期比42%増の113億ドル（約1兆2000億円）だった。中国の需要がけん引する形で鉄鉱石価格が上昇し、利益を押し上げた。売上高は42%増の608億ドルだった。部門別で見ると、鉄鉱石が65%増の344億ドル、銅が47%増の157億ドルと大幅に伸びた。石油・ガス事業は3%減の39億ドル、石炭は17%減の51億ドルだった。

BHPは同日、カナダで開発を進めるカリウム採掘プロジェクトに57億ドルの投資を決め、英国とオーストラリアでの重複上場を廃止して豪州に一本化する方針を発表した。石油・ガス事業を豪エネルギー大手、ウッドサイド・ペトロリアムに売却することも正式に発表した。

アサヒロジスティクス、輸出入貨物の取り扱いに参入

食品輸送のアサヒロジスティクス（さいたま市）は10月1日、輸出入貨物の取り扱いを始める。横浜港の大黒ふ頭（横浜市）に拠点を設け、輸出入貨物の入出庫、保管などの各種業務を行う。主力事業の全国への食品輸送と併せて、輸出入に関わる業務にも対応できる体制を整えることで、事業拡大を目指す。

横浜港国際流通センター（横浜市）が管理運営する総合物流施設「横浜港流通センター」の3階に、アサヒロジスティクス大黒ふ頭流通センターを開設する。延べ床面積は約4300平方メートル。ここを拠点に①輸出入貨物の入出庫、保管、荷さばき、流通加工、国内配送②海外現地・日本からの通関、貿易に関する手続き③国内向け貨物の一般倉庫としての保管――などの業務を行う。

アサヒロジスティクスでは今後、コスト削減のために商社などを経由せずに直接輸出入を手掛ける荷主が増えるとみている。主力の国内での食品輸送業務に加えて輸入手続きや長期保管などに対応できるようにすることで一括受注の拡大を狙う。

今回の輸出入に関わる通関手続き業務への参入にあたっては、国際貿易物流について多様な業務を一貫して受託している明正（東京・中央）から協力を得るといふ。

フェノール価格
2カ月連続上昇
合成樹脂などの原料と
なる基礎化学品フェノ
ールの国内大口価格が2カ
月連続で上がった。三井

化学などが決める8月分
の国内価格は1キ当たり
320・2円で、7月と
比べて5・2円(1・7
%)高い。値決めの指標
となるベンゼン価格の上
昇を反映した。

ベンゼン上昇続く 8月アジア向け、経済活動が回復

合成樹脂などの原料となる基礎化学品ベンゼンのアジア向け契約価格は2カ月連続で上昇した。指標となるENEOSの8月契約価格は1トン1065ドルと、前月に比べて25ドル（2.4%）上がり、2カ月連続で2014年11月の高値（1095ドル）に迫る1000ドルを超えた。

経済活動の正常化などを背景にアジア域内でベンゼンの需要が伸びている。石油化学製品の出荷は堅調で、ベンゼンの高止まりが続きそうだ。

アジア価格の上昇を受け、日本国内のベンゼン想定価格も8月は同1.7円（1.4%）高い1キロ122.2円となった。